

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	どすこい王寺町部屋		
○保護者評価実施期間	2025年 12月 10日		～ 2025年 12月 29日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	49	(回答者数) 29
○従業者評価実施期間	2025年 12月 10日		～ 2025年 12月 29日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 1月 29日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	プログラムの豊富さ	森という自然がフィールドであること、また児童発達支援と放課後等デイサービスの事業は異年齢であるが同じ場所、同じ時間で行うことで、自然にプログラムの豊富さが生まれている。季節の移り変わりや一人ひとりの成長によってプログラムは移り変わっていく。一つのプログラムにおいても、参加メンバーや気候によって、目的や意図は変わっていく。スタッフでプログラムの目的を共有し、実際の支援の場において、目的に合わせた支援を行っている。	スタッフのさらなるスキルアップが加わることで、一つひとつのプログラムの効果、プログラムが一人ひとりの成長に与える影響は変わってくるので、研修によってスタッフのスキルアップを目指す。
2	ニーズの聞き取りから実行までの流れ	スタッフの送迎時の報告や聞き取りから、保護者様とのメールや電話でのやり取り、年2回の顔を合わせてのモニタリングなどから丁寧に聞きとった保護者様の意向と、毎日の支援の中で利用者様から汲み取った意向を、毎日の打ち合わせ時や、毎週のミーティングにおいて共有し、PDを通して日々の支援に落とし込み、実行している。	年2回のモニタリングが、保護者様の意向を聞き取る大切な機会であると同時に、スタッフ側の意見をまとめ伝える機会でもある。モニタリング前のスタッフからの聞き取り、ニーズのまとめ、支援、計画の達成度の振り返りを強化し、利用者様一人ひとりの自立に向けた支援を積み重ねていく。
3	SNS(インスタグラム)での情報発信の細かさ	ほぼ毎日のインスタグラムの投稿を評価していただいた。「スタッフのコメントに共感した」「活動の様子を写真で見るのが楽しみなのでたくさんアップして欲しいです。」「毎日SNSチェックしています。」「かなりマメなSNSは楽しく拝見しています。」などの声も聞かれ、保護者様との関係の強化に役立っていると思われる。	1日の様子をざっくり報告するのではなく、ひとつの感動的な内容を報告することも取り入れる。支援する側の狙いや、一人ひとり、またチームとして成長を感じたこと、一スタッフとして心が動いたことなども報告していく。各スタッフが投稿業務を数多くこなし、慣れていくことを目指す。曜日での差を作らない。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域の子との交流を、保育所や認定こども園、幼稚園、放課後児童クラブや児童館との交流という形では、行っていない。	イベントでは、年2回の近所の達磨寺の「だるまマーケット」への参加という形で地域の子との交流をしている。イベントの参加の継続と共に、近所の公園や各活動場所(折りの滝、矢田山遊びの森、馬見丘陵公園など)において、地域の子と交流が出来ている。	当事業所に通う利用者様の95パーセントが地域の保育所、小中学校、高校に通い、放課後児童クラブにも通っており、改めて交流をする必要はないと思われる。イベントでの交流や地域の公園等での活動を続ける。
2	事業所の構造化と清潔	主にサービス提供を行っているフィールド(陽楽の森・第三ゾーン)はバリアフリーの環境ではありません。感覚統合に資する目的で、平面は最小限に留め、舗装も行っておりません。	陽楽の森においても視覚的支援ツールを使って、備品(シャベル、のこぎり、バケツ等)の保管場所をわかりやすく提示することや、事業所においても靴や荷物の保管、遊び道具の保管場所など、利用者様にさらにわかりやすく構造化された環境を提供する。
3	避難訓練実施の周知が出来ていない	地震の避難訓練を12月に実施、火災の避難訓練を3月に実施予定である。12月の避難訓練の実施は、実施前に申込書に予定を記載、実施後お知らせに記事を記載、SNSでも情報を発信したが、まだ多くの方々への周知に至らなかった。	3月の火災の避難の実施も紙媒体とSNSで周知する。来年度も実施前、実施後に情報を発信し、周知に努める。